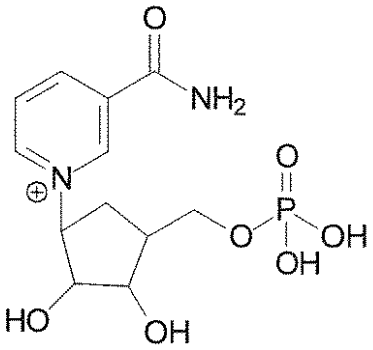
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成27年4月16日(2015.4.16)

【公表番号】特表2013-524770(P2013-524770A)
【公表日】平成25年6月20日(2013.6.20)
【年通号数】公開・登録公報2013-032
【出願番号】特願2012-543721(P2012-543721)
【国際特許分類】
Ｃ１２Ｍ　1/34　(2006.01)
Ｃ１２Ｑ　1/32　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ１２Ｍ　1/34　ＺＮＡＥ
Ｃ１２Ｑ　1/32

【誤訳訂正書】
【提出日】平成27年2月24日(2015.2.24)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
少なくとも１つの分析物を測定するための診断用エレメントであって、
（ａ）該分析物に特異的であって、検出層に含まれる検出試薬、および
（ｂ）規定量の測定すべき分析物（指標分析物）であって、検出試薬との反応に近づき難い放出可能な形態で存在する指標分析物を含み、
指標分析物が検出層または個別の貯蔵層に存在し、および
（ｉ）光化学的および／または電気化学的に溶解されるバリア層が、貯蔵層と検出層との間に配置される、
（ii）指標分析物が、少なくとも１つのエネルギー吸収体を含む疎水性ポリマーマトリクスにカプセル化される、
（iii）指標分析物が、光化学的、電気化学的または光化学的および電気化学的に開裂可能な保護基を含む、または
（iv）前記（ｉ）～（iii）の２つ以上の組み合わせが適用される、
ただし、前記（ｉ）のみが適用される場合には、指標分析物は貯蔵層に存在する
診断用エレメント。
【請求項２】
検出試薬が、酵素および／または補酵素を含むことを特徴とする請求項１記載の診断用エレメント。
【請求項３】
補酵素が、安定化された補酵素である請求項２記載の診断用エレメント。
【請求項４】
酵素がニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（ＮＡＤ／ＮＡＤＨ）依存デヒドロゲナーゼ、またはニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸（ＮＡＤＰ／ＮＡＤＰＨ）依存デヒドロゲナーゼであることを特徴とする請求項２または３記載の診断用エレメント。
【請求項５】
酵素がグルコースデヒドロゲナーゼ（ＥＣ１．１．１．４７）またはグルコース－６－リン酸デヒドロゲナーゼ（ＥＣ１．１．１．４９）である請求項４記載の診断用エレメント

。
【請求項６】
安定化された補酵素が、安定化されたニコチンアミドアデニンジヌクレオチド（ＮＡＤ／ＮＡＤＨ）またはニコチンアミドアデニンジヌクレオチドリン酸（ＮＡＤＰ／ＮＡＤＰＨ）化合物であることを特徴とする請求項３～５のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項７】
安定化された補酵素が、カルバＮＡＤもしくはカルバＮＡＤＰ、または式（Ｉ）の化合物であることを特徴とする請求項６記載の診断用エレメント。
【化１】



(I)

【請求項８】
検出試薬が、さらにメディエーターおよび／または光学的指示薬を含むことを特徴とする請求項１～７のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項９】
担体層を含むことを特徴とする請求項１～８のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１０】
検出層、バリア層および／または貯蔵層が、少なくとも１つのエネルギー吸収体を含有するポリマーマトリックスを含むことを特徴とする請求項１～９のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１１】
ポリマーマトリックスが、少なくとも１つの疎水性ポリマーから形成されることを特徴とする請求項１～１０のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１２】
疎水性ポリマーが、ポリメチルメタクリレート、ポリエチルメタクリレート、ポリカーボネートおよびそれらの化学的誘導体からなる群より選択されることを特徴とする請求項１１記載の診断用エレメント。
【請求項１３】
ポリマーマトリックスが少なくとも１つのエネルギー吸収体を共有結合した形態で、および／または遊離の形態で含むことを特徴とする請求項１～１２のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１４】
エネルギー吸収体が、シアニン色素およびスクアリリウム色素から選択される疎水性色素であることを特徴とする請求項１～１３のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１５】
シアニン色素がクリプトシアニン、インドトリカルボシアニン（Ｃ７）、オキサカルボシアニン（Ｃ３）、ヨウ化ピナシアノール、チアカルボシアニン（Ｃ３）およびチアジカルボシアニン（Ｃ５）から選択され、スクアリリウム色素がスクアリリウム色素IIIである

請求項１４記載の診断用エレメント。
【請求項１６】
テストテープ、テストディスク、テストパッド、テストストリップまたはテストストリップドラムとして設計されることを特徴とする請求項１～１５のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１７】
いくつかの分析物の測定のために設計されることを特徴とする請求項１～１６のいずれか１項に記載の診断用エレメント。
【請求項１８】
請求項１～１７のいずれか１項に記載の診断用エレメントを含む分析的測定装置。
【請求項１９】
分析物の測定方法であって、
（ａ）分析物を請求項１～１７のいずれか１項に記載の診断用エレメントと接触させる工程、および
（ｂ）分析物の存在および／または量を測定する工程
を含む方法。
【請求項２０】
分析物により生成されたシグナルを較正する方法であって、
（ａ）請求項１～１７のいずれか１項に記載の診断用エレメントを分析的測定装置に挿入する工程、
（ｂ）分析物を診断用エレメントと接触させることにより、分析的測定装置において第１の検出可能なシグナルを生成する工程、
（ｃ）診断用エレメント中の指標分析物を放出することにより、分析的測定装置において第２の検出可能なシグナルを生成する工程、および
（ｄ）工程（ｃ）において生成されたシグナルを用いて工程（ｂ）において生成されたシグナルを較正する工程
を含む方法。
【請求項２１】
分析的測定装置の検出オプティクスを検査する方法であって、
（ａ）請求項１～１７のいずれか１項に記載の診断用エレメントを分析的測定装置に挿入する工程、
（ｂ）診断用エレメントにおいて指標分析物を放出することにより分析的測定装置において検出可能なシグナルを生成する工程、そして
（ｃ）工程（ｂ）において生成されたシグナルを参照シグナルと関連付ける工程
を含む方法。
【請求項２２】
試薬の制御放出のためのシステムであって、
（ａ）試薬および別個の反応系を含む担体であって、試薬が反応系との反応に対して近づき難い放出可能な形態で存在し、
（ｉ）光化学的および／または電気化学的に溶解されるバリア層が、試薬と反応系との間に配置される、
（ii）試薬が、少なくとも１つのエネルギー吸収体を含む疎水性ポリマーマトリクスにカプセル化される、
（iii）試薬が、光化学的、電気化学的または光化学的および電気化学的に開裂可能な保護基を含む、または
（iv）前記（ｉ）～（iii）の２つ以上の組み合わせ
が適用され、および
規定された条件下で放出できる
担体、ならびに
（ｂ）担体上の試薬を放出するための手段

を含むシステム。
【請求項２３】
回路素子としての、請求項２２記載のシステムの使用。
【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０００９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０００９】
分析物を測定する際の間違った結果を避けるために、診断用エレメントは、診断用エレメントにおいて使用される検出試薬の個々の成分が、測定時になお機能的形態であるかどうか、および検出試薬が分析物の定性および／定量検出に同じ程度に適しているかどうかを評価することができなければならない。これに関連して、たとえば、酵素活性の評価は、タンパク質のコンフォメーションの変化により酵素の不活性化がまず生じ、それ故、組成に変化がなく、光学的または電気化学的に不活性な粒子が形成されるため、特に問題となる。
【誤訳訂正３】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４５】
したがって、前述した方法は、通常、試薬の制御放出のためのシステムの提供を可能とし、その放出は、系内の他の反応プロセスとは独立して行われ、それゆえ、系内の反応プロセスの標的化した制御を可能とする。その結果、保護された形態で存在し、規定された条件下で放出されることができる試薬、およびそれから分離されている反応系を含む担体、ならびに担体上の試薬を放出するための手段を含むシステムは、たとえば、特に反応カスケードとの関連で回路素子として使用されることができる。これに関連して、試薬は、反応系との反応の前に、特に溶解性マトリックスへの試薬のカプセル化によって、溶解性バリア層による反応系からの試薬の空間的分離によって、および／または本件出願の範囲内で詳細に説明されているように化学的保護基を用いて保護することができる。
【誤訳訂正４】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】００４９
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【００４９】
各要件に依存して、照射により吸収されたエネルギーを少なくとも部分的にその局所環境に放出し、それによりポリマーマトリックスの変化を生じさせる重合ポリマーマトリックス内に含有されるエネルギー吸収体として、エネルギー吸収体を使用することが可能である。ホール形成を促進するために、ポリマーマトリックスおよび／または疎水性ポリマーは、少なくとも１つのエネルギー吸収体に加えて、さらに、たとえば窒素、二酸化炭素、または室温、適切な加熱条件下で気体である他の化合物などの揮発性の高い化合物を放出する熱的に不安定な化合物または熱的に不安定な官能基を含む。これらの化合物または官能基の例としては、特に、アゾ誘導体、カルボン酸誘導体および環状アルケンなどが挙げられるが、これらに限定されるものではない。